

# 八潮市 防災機能を有する公園整備 基本構想

概要版



八潮市

# 防災機能を有する公園整備基本構想について

## (1) 策定の目的

近年の大規模震災や台風、異常気象に伴う大雨等による自然災害の発生に対して市民の避難場所としてだけでなく、救援物資の受け入れや復旧活動など、防災の拠点となる公園の早急な整備が求められています。

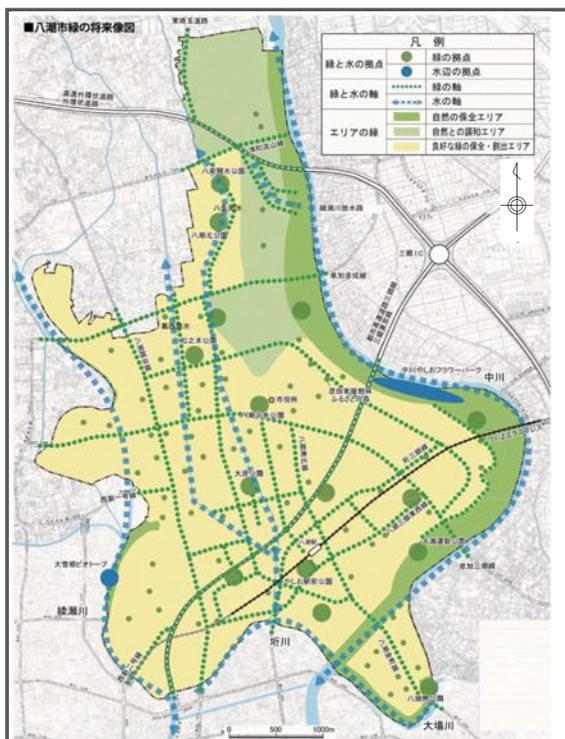
このような状況を踏まえ、平常時は憩いやレクリエーションの場として、また、災害時は一時避難場所の他、救援物資の受け入れや搬送拠点としての機能を有する公園の整備を目指し、防災機能を有する公園整備基本構想を策定しました。

## (2) 基本構想の位置づけ

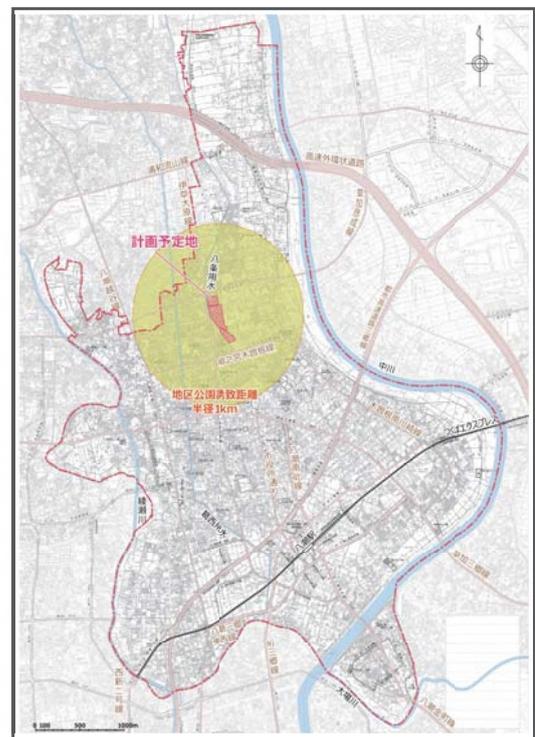
「八潮市防災機能を有する公園整備基本構想」(以下「基本構想」という。)は、本市の防災機能を有する公園のあり方及び今後の土地利用の方向性を明らかにし、防災公園としての基本的な整備方針を定めるものです。

## (3) 計画予定地の位置及び面積

計画予定地は、県立八潮高校の西側周辺に位置し、面積は約6.5haを想定しています。計画予定地に隣接する施設としては県立八潮高校の他、八潮病院、八潮消防署、やしお生涯学習館等が立地しています。



緑の将来像図



計画予定地位置図

## (4) 上位・関連計画の概要

基本構想は、本市の上位計画である総合計画や都市計画マスタープラン、関連計画である緑の基本計画や地域防災計画の内容に即して定めます。

八潮市地域防災計画において、計画予定地周辺は「防災拠点となる公園の整備を進める」と位置づけられていることや、やしお生涯学習館は災害時の本部設置場所の候補地にも指定されており、本市の防災上の重要な拠点となっています。

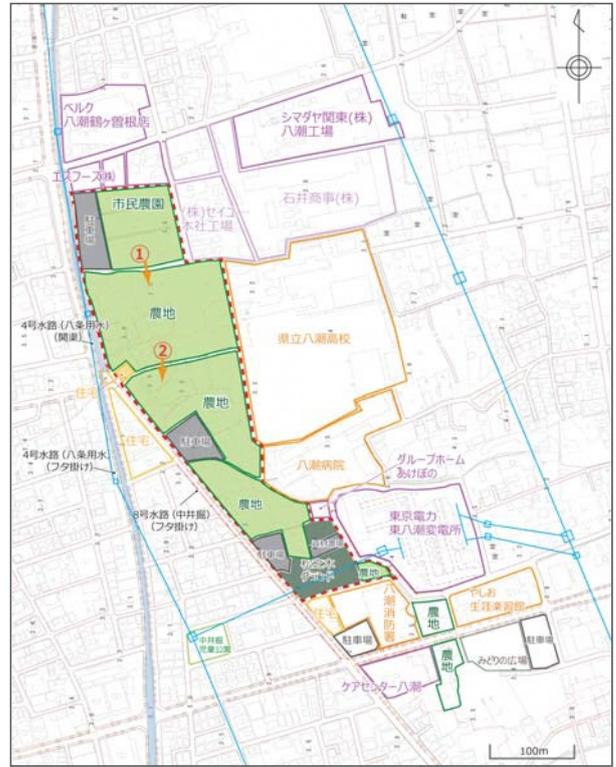
# 周辺の現況確認

## (1) インフラ整備状況及び土地利用状況

計画予定地の西側地域は土地区画整理事業により道路が整備されていますが、東側地域はアクセス道路が少なく、狭幅員道路が多くなっています。また、西側に4号水路(八条用水)・8号水路(中井堀)が近接しているほか、小規模な水路が計画予定地内を複数通っています。

そのほか3方向に電力会社による鉄塔と送電線が設置されており、計画予定地南側の一部を横断しています。

計画予定地内の土地利用は一部に宅地や駐車場、資材置き場等があるものの、農地としての利用が主となっています。また、計画予定地の北側は市民農園として利用されています。



①計画予定地内の状況



②計画予定地内の状況

### ■ 主な課題一覧

公園整備に向けた、計画予定地の現況課題は以下の通りです。これらの課題については、今後の基本計画を検討する中で、関係課や関係機関等と検討していきます。

#### 計画予定地内の 主な課題

市民農園や水路・市道などの既存の機能の取り扱い

計画予定地内の雨水排水機能の検討

浸水対策としての高上げや震災時の液状化対策

#### 計画予定地への アプローチ (入口・避難路)

既存道路の拡幅や右折帯の確保などのアクセス性の向上

避難路確保のための橋かけや暗渠化などの既存の水路の取り扱い

送電線や鉄塔に対するヘリポートの整備に向けた条件確認

#### 周辺建物・施設 との連携

周辺の公共公益施設との防災機能の役割分担

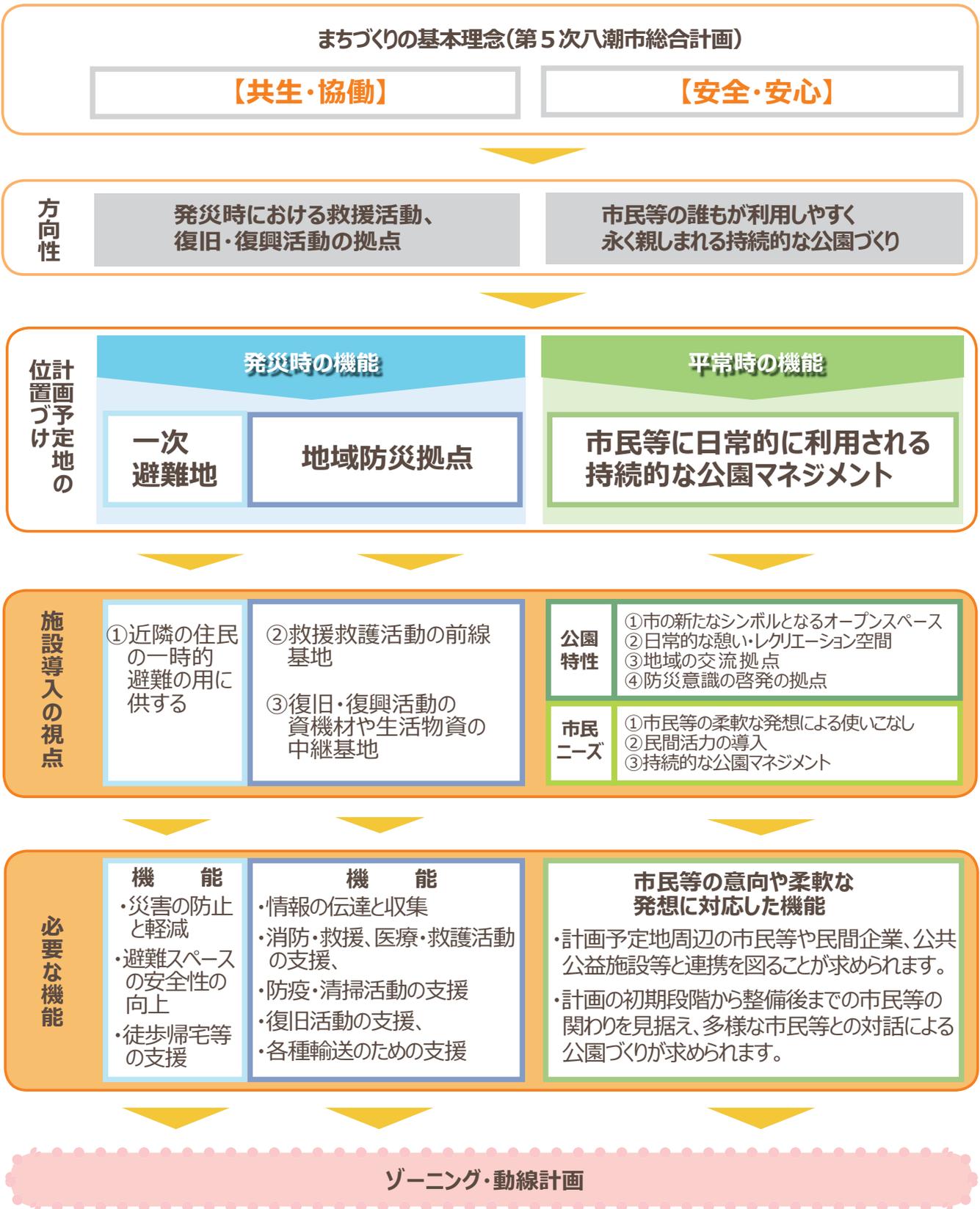
学校との連携した新たな避難路の確保

緩衝帯の確保などの周辺建物への配慮

食品工場や小売店などの周辺事業者との連携

## (2) 公園整備に向けた基本的な考え方

上位・関連計画や計画予定地及び周辺の現況等を踏まえ、公園整備に向けた基本的な考え方を以下の通り設定します。



# 発災時機能の考え方

## (1) 防災公園の種類と計画予定地の位置付け

計画予定地の面積は約6.5haのため、面積要件では「一次避難地」に該当しますが、「一次避難地」及び「地域防災拠点」の機能を備えた地区公園として検討します。

### ■ 防災公園の種類



※なお、公園整備について、国庫補助金の対象事業としていくためには、広域避難地としての位置付けが必要になることから、計画予定地及び周辺の公共公益施設を含めた10ha以上の面積確保が補助要件となります。

## (2) 計画予定地に求められる機能

一次避難地と地域防災拠点として求められる機能は以下の通りです。

### 一次避難地

大震災や津波災害時等においては、主として近隣住民の緊急避難の場、広域避難地に至る避難中継基地としての役割を担う。

- 緊急避難の場
- 帰宅困難者の一時滞在の場
- 一時的避難生活の場
- 救援活動の場

### 地域防災拠点

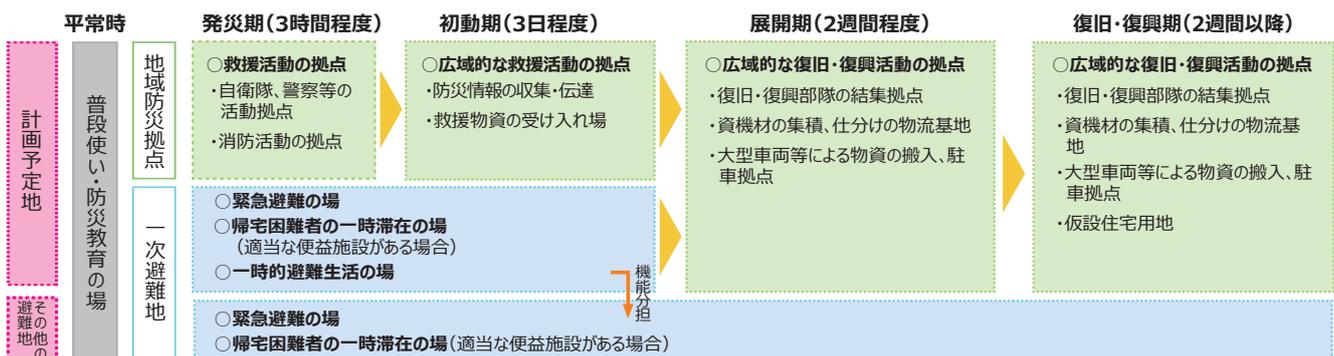
より市街地に近い立地での救援救護活動や復旧・復興活動の前線基地、物資や資材の中継基地などの役割を担う。

- 救援活動の前線基地
- 救援活動の拠点
- 復旧・復興活動の前線基地
- 一時的避難生活の場

## (3) 災害時の時間経過に伴う利用の変化

計画予定地周辺には避難場所となる公共公益施設等が充足しているため、災害時には時間経過に伴う利用の変化として、発災期は一次避難地を想定した公園を目指します。以降は地域防災拠点として救援救護活動の前線基地や復旧・復興活動の資機材や生活物資の中継基地として機能する公園とします。

### <計画予定地の時間経過に伴う利用の変化>



# 平常時機能の考え方

## (1) 公園整備の具体化に向けた考え方

整備の具体化に向けた考え方・整備イメージとして、公園特性から求められる機能に加え、市民等による日常的な使いこなしや民間活力の導入等による、持続的な公園マネジメントを目指していきます。実現にあたっては、計画予定地周辺の市民等や民間企業、公共公益施設等と連携を図り、公園をより魅力的にし、地域の拠点として機能することが求められます。

### 機能導入の考え方イメージ

#### 公園特性から求められる機能



#### 市民ニーズから求められる機能

##### 市民等による日常的な使いこなし

- ・多様な活動を誘発させる使いやすい公園施設の整備
- ・市民等による日常的な公園の維持管理

##### 民間活力の導入

- ・カフェ等の収益施設の設置による、平常時の賑わいづくり
- ・公園機能やサービス向上へ活用

##### 持続的な公園マネジメント

- ・従来の維持管理に よらないまちづくりとしての公園運営
- ・市民や民間事業者等による公園マネジメントの参画

市民等

民間事業者

計画予定地

市民団体

公共公益施設

# ゾーニング・動線計画

## (1)ゾーニング・動線計画(案)

周辺の整備状況や計画予定地に求められる機能等の検討を踏まえ、平常時、発災期及び展開期におけるゾーニング・動線計画(案)を次のとおり想定します。なお、ゾーニング・動線計画(案)については、今後の基本計画等の検討や住民意見交換会等の実施の過程で変動が生じます。

### 平常時

- レクリエーション広場ゾーンは、体験農園などの農的利用や BBQ 等の多様な利用に対応した広場を想定します。
- 多目的広場ゾーンは、多目的に利用できるオープンスペースを想定します。
- シンボル広場ゾーンは、管理事務所その他、飲食店などの民間活力を活用した施設導入も検討します。
- 雨水流出を抑制する調整池は、満水時以外は広場とし、軽スポーツ(スケボー、3×3 バスケ、ダンス等)ができるフリーコートとしての活用も検討します。

※平常時のゾーニングは次年度以降、住民意見交換等により検討を進めていくため、今回は一例として作成しています。



### 発災期：3 時間～3 日程度

- 避難広場ゾーンは発災直後の周辺からの一次避難地としての機能を担います。
- 救援活動対応ゾーンは、発災時の救護活動等の中心となるゾーンとし、医療関係車両の乗入れや救護物資を受け入れる倉庫、活動本部としての機能を持つ管理事務所など、機能の中枢を担います。
- 計画予定地西側からの避難路の確保のため、新たに八条用水に橋かけをします。

※救援活動ゾーンは、ドクターヘリや消防用ヘリの離着陸を想定したゾーンとしての機能も検討します。



### 展開期：3 日～2 週間程度

- 救援活動対応ゾーンは、救援物資等を受入れる倉庫や活動本部としての機能など、市内の救援活動等の機能の中枢を担います。(一次避難地としての機能は周辺の公共施設と機能分担をします。)
- ボランティア受入ゾーンは、時間経過により、救援救護活動の拠点となるゾーンのほか、ボランティアの受入や滞在も想定したゾーンとします。(公共施設の立地状況を踏まえ、ボランティア受入ゾーン南側は北側の機能の補完を担います。)
- 輸送用のヘリポートの離着陸を想定した規模(40 m×40 m)のヘリポートを配置します。

※発災から1ヵ月以降には仮設住宅の建設用地としての機能も検討します。



# 今後の検討に向けた課題の整理

基本構想における検討を踏まえ、今後の検討に向けた課題としては次のとおりです。



## 八潮市防災機能を有する公園整備基本構想 概要版 2019(平成31)年3月

発行:都市デザイン部公園みどり課  
住所:八潮市中央一丁目2番地1  
電話:048-996-2111(代表)  
Eメール:koenmidori@city.yashio.lg.jp